



# 北海道大学病院創立100周年 記念式典・記念講演会・祝賀会開催報告

去る令和5年11月4日(土)、札幌グランドホテルにおいて、北海道大学病院関係者、病院職員など多数の参加者のもと、北海道大学病院創立100周年記念式典・記念講演会・祝賀会が挙行されました。

北海道大学病院は北海道大学医学部が大正8(1919)年に創立された2年後の大正10(1921)年11月1日に北海道帝国大学医学部附属病院として開院したことに端を発します。当初、本記念行事は令和3(2021)年11月に本式典を開催する予定でしたが、コロナ禍のため延期となり、行動制限が緩和されてからの開催となりました。

同日13時30分より記念式典がとりおこなわれ、平野聡副院長(64期)の開式の辞、渥美達也病院長(64期)の式辞に続き、實金清博総長(55期)、島山鎮次医学部長(66期)、網塚憲生歯学部部長からの挨拶の後、文部科学省高等教育局医学教育課 幸嗣課長、鈴木直道北海道知事、秋元克広札幌市長、山下敏彦札幌医科大学学長から祝辞が述べられました。

引き続き行われた記念講演会では、国際医療福祉大学臨床医学研究センター教授、山王メディカルセンター脳

血管センター長であり、長嶋茂雄氏の主治医としても知られる内山真一郎先生(50期)から、急性脳血管症候群(ACVS)と塞栓源不明の脳塞栓症(ESUS)と題した御講演を頂きました。ご自身が北大病院開設50年頃の時期に北大医学部を卒業され、多感な時期を過ごした北大キャンパスでの経験を礎として、その後になし得た世界的業績についてのご講演であり感銘を受けるものでありました。次に、もと海上保安官として昭和基地越冬隊に参加し、その時の経験をもとに「南極料理人」を執筆、出版され、その後に映画化されるまでに至った西村 淳氏から「南極のドクター達」と題した御講演を頂きました。南極という極地で織りなされる体験や、個性的ながらも魅力的な隊員や医師のエピソードをご紹介いただくとともに、南極基地の運営には「70%の力でやらなければ非常時に踏ん張れない」等の原則を紹介いただき、医療

にも共通する内容がふんだんに含まれた示唆に富む講演でありました。

記念講演会終了後、同ホテル内で会場を移して行われた祝賀会は、渥美達也病院長の挨拶、北海道医師会藤原秀俊副会長からの祝辞の後、北海道大学病院創立100周年記念事業ワーキング委員会 石田 晋委員長(会員2)の御発声に

よる鏡割りにより始まりました。和やかな雰囲気の中、参加者一同、歓談に花を咲かせました。会の中では、病院の歴史を振り返るスライド放映もなされました。最後に佐藤嘉晃副院長の音頭で中締め乾杯がなされ、今後の北海道大学病院のさらなる発展を祈念しつつ盛会裡に祝賀会は終了となりました。

(白井慎一編集委員 83期)



鏡開き: 左から、渥美達也病院長、網塚憲生歯学部部長、島山鎮次医学部長、藤原秀俊北海道医師会副会長、本間明宏副院長、實金清博総長、南須原康行副院長、岡林靖子副院長(看護部長)

## 秋の褒章、叙勲

### 「瑞宝中綬章」受章 教育研究功労



福島県立医科大学  
名誉教授

ふじた せいぞ  
藤田 禎三  
(46期)

「瑞宝中綬章を受章して」

この度、11月3日(文化の日)付で瑞宝中綬章を受けることができました。免疫学、特に自然免疫の中心的役割を果たす補体研究の成果が認められたのではないかと考えています。

私は、1970年に北海道大学医学部を

卒業し、第二内科において研修・研究を行いました。1979年12月に筑波大学の基礎医学系免疫学の助教授を拝命し、臨床医学から転じて、免疫学の基礎研究を行うことになりました。1990年には福島県立医科大学の第二生化学講座教授として赴任し、2005年に講座名が免疫学講座と変更されました。研究面では、自然免疫に働く新しい補体活性化経路を発見し、免疫学の進歩に少なからず貢献することができました。これまでの研究成果が認められ、2010年に第56回野口英世記念医学賞を受賞しました。翌年3月には、定年退職し、その後は、福島県立総合衛生学院の学院長としてほぼ10年間に渡って医療人の

教育に携わってきました。

私は、北大第二内科に在籍した時から、補体研究を行ってきました。幸いにも、新規の酵素マスプや新規レクチンのフィコリンを見出し、それが新たな補体活性化経路、レクチン経路の発見につながりました。これらの功績は、主要な発見は全てなされたと思われていた補体学界において30年ぶりの快挙であり、免疫学の教科書を書き換えたと思自負しています。

さて、私は、文部科学省関係の受章者で、令和5年秋の勲章・褒章伝達式は、11月13日に椿山荘で行われました。印象に残ったのは、紫綬褒章を受章された俵万智さん(歌人)が、「晴れの日の

葉っぱは願うこの国の未来の森にいやしき吉事(よごと)」と受章の喜びを短歌で表しました。次いで、勲章・褒章が手渡され、バスに分乗して皇居に向かいました。皇居の豊明殿で天皇陛下からお言葉をいただき、バスごとに記念写真を撮り、東京駅丸の内バスを降りました。下車に際して、陛下より皇居の絵葉書と和菓子「菊焼残月」をお土産としていただきました。

最後に、このような機会に恵まれたのは、「補体ひとすじ」の研究が認められたことであり、私との研究に携わった多くの人々と家族のお陰と感謝しております。

### 「瑞宝小綬章」受章 保健衛生功労



函館市医師会病院  
顧問

ほんま としし  
本原 敏司  
(49期)

「秋の叙勲に浴して」

11月7日、京王プラザホテル札幌にて秋の叙勲・褒章伝達式が執り行われ、鈴木直道知事より瑞宝小綬章(保健衛生功労)を賜りました。今回、道内での医師の受章者は、元札幌医大学長と

東旭川クリニック院長との3名でした。私には予期せぬ通知であったのですが、地域医療支援病院である函館市医師会病院の地域医療への貢献度の評価により、その組織代表として選考された事と存じます。病院長とは言っても職務そのものを強く意識したりせず、むしろひたすら現役外科医として手術に打ち込み、医局・看護部などを求心的に引っ張って行こうという気持ちだけは持ち続けて来ました。病院の性格上、医師会会員の先生方の手術も悪性腫瘍を主として、30人程携わらせて頂く機会を得ました。また会員のご家族や医師会職員も含めるとその倍の数になる

かと思われま。斗南病院時代には医師確保の苦勞をそれ程感じませんでしたが、やはり地方都市ではそうは行かず、民間会社からの紹介採用もやむを得ない時があり、勤務条件も柔軟にして医師獲得に努めました。以前の大学医局からの年度毎の教室員派遣時代は戦力的に安定性があり、貴重な方式であったと今更懐かしく思い出されます。

私は第3代杉江三郎教授の下に、第2外科へ入局し、以後田邊達三教授、加藤紘之教授、安田慶秀循外教授のご薫陶を受け、且つ2外同門関連病院の諸先輩からも多くのご指導を頂いて何とか消化器・呼吸器系の外科医の道を歩ん

で参りました。特に低圧系血管の処置を学べたことは大きな励みとなりました。60才を過ぎた頃からは根治性と安全性との両方を満足させる接点について、やはり後遺症の少ない術式を考えるようになったのは自然な成り行きだったと思われま。今後は後輩諸君の成長ぶりを楽しみに眺めながら、外科学の「今日から明日へ」の展開を見定めることが出来ればいかと明るく念じております。そして北海道において肺移植が成功・定着されることを切に祈念して、稿を終えます。



### 訃報 名誉教授 阿岸 祐幸先生(32期)を偲んで

北海道大学名誉教授 大塚 吉則(55期)

北大名誉教授の阿岸祐幸先生が、令和5年12月12日にご逝去されました。享年91歳でした。阿岸先生は札幌市に生まれ、昭和31年に北海道大学医学部医学科を卒業し、昭和36年に大学院医学研究科内科系を修了し、医学博士の学位を授与されました。米国に留学後、昭和40年に北海道大学医学部助手に就任しました。昭和45年、登別市の北海道大学医学部附属病院登別分院助手、同年同講師を経て、昭和46年に北海道

大学医学部附属温泉治療研究施設助教授となり、昭和53年同教授に昇任しました。同時に医学部附属温泉治療研究施設長及び医学部附属病院登別分院長(併任)となられました。その後大学の法人化に伴い登別の施設が閉鎖され、平成6年、新設された北海道大学医学部リハビリテーション医学講座教授となり、平成7年停年退職され名誉教授の称号を授与されています。

先生のご専門は温泉気候医学、内科

学、糖尿病学ですが、中でも温泉気候医学におけるご業績には多大なるものがあります。北海道営林局振動障害管理医代表を勤められ、振動障害発症メカニズムの研究、その温泉治療の研究・実践を行っていました。北大生理学教室とも交流され、温泉気候医学の時間生物学的研究をなさい、糖尿病の治療に応用されました。さらには温泉プールにおける水中運動のメカニズム、リハビリテーションへの応用への研究・実践なども行っていました。学会活動では日本温泉気候物理医学会、日本生気象学会、日本臨床環境医学会の理事を務め、多数の学会で評議員も務められております。国際的にもご活躍されており、特にドイツミュンヘン大学、

マールブルグ大学との研究交流を盛んに行っていました。その功績から「ドイツ物理医学・リハビリテーション医学会名誉会員」の称号を平成元年に授与されています。社会活動として、温泉気候医学を活用した健康づくり運動に御尽力され、温泉と健康(岩波新書)を始めとして多数の著書を上梓しています。私はニューヨークでの留学を終え登別分院に赴任し、阿岸先生と温泉気候医学に出会いました。自然療法の魅力、魅力を教えてくださった恩師に心から感謝しています。

以上、先生の長年にわたるご功績に敬意を表し、多大なる貢献に感謝申し上げます。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## ズームアップ②⑥ 北海道におけるPICU (Pediatric ICU)

北海道大学大学院医学研究院 小児科学教室 教授 真部 淳(61期)

北海道大学病院 集中治療部 助教 (小児科PICU班チーフ) 泉 岳



道内各地域において専門的な基礎疾患を抱えた小児患者が存在し、基礎疾患のない小児よりも圧倒的に入院率が高く、管理には専門性が求められます。当院は複雑な病態の絡む急性期治療を専門性を担保しながら診療する場であり、地域の最終搬送施設であるべきですが、病床数の問題や搬送の困難さから、各地域にご負担をおかけしてきました。一方で、院内においては医療安全と働き方改革を重視する潮流にも乗らなければなりません。各診療班が少人数で重症患者を夜通し管理することが許されない時代です。各地域と院内のニーズに応えつつ、科学・教育機関としての機能を兼ね備えた小児集中治療施設PICU設立を目指しています。

PICUは新生児期以降の原則15歳未満の小児に、専門医が常勤して24時間体制で集中治療を提供するICUの一種ですが、新生児の集中治療を担うNICUと比べてその数は圧倒的に少ない現状があります。22年4月現在、小児集中治療協議会登録施設は35施設にとどまり、小

児特定集中治療室管理料(7日以内1万6317点、8日以上1万4211点)を算定する施設も21年6月現在9施設に過ぎません。道内には小児特定集中治療室管理料の施設基準を満たすPICUはありません。現実運用されているのは、道立子ども総合医療・療育センターの6床のみ、同協議会登録施設であるものの、小児特定集中治療室管理料は届け出られていません。小児特定集中治療室管理料の施設基準のハードルは高く、小児入院医療管理料1の届け出医療機関(23年6月現在、道内に算定施設なし)に限られ、病床数は8床以上、1床あたり15㎡以上が必要で、看護配置は2対1を要します。専任医師が常勤し、うち2人以上は5年以上の小児特定集中治療経験を要します。他にも転院受け入れや、先天性心疾患手術の周術期管理などで一定の実績も求められます。道内で必要なPICU病床数は約20床と試算され、関連学会などで小児心臓手術施設はPICUを備えるべきだとのコンセンサスが固まりつつあることも、設立を目指

した理由の一つです。集中治療が必要な小児は成人用ICUに入室します。しかし当院のICUは特定集中治療室管理料2(7日以内1万4211点、8日以上1万2633点)を算定する8床しかありません。2030年代前半に新病棟建設が計画されていますが、このタイミングでのPICU開設を目指しています。

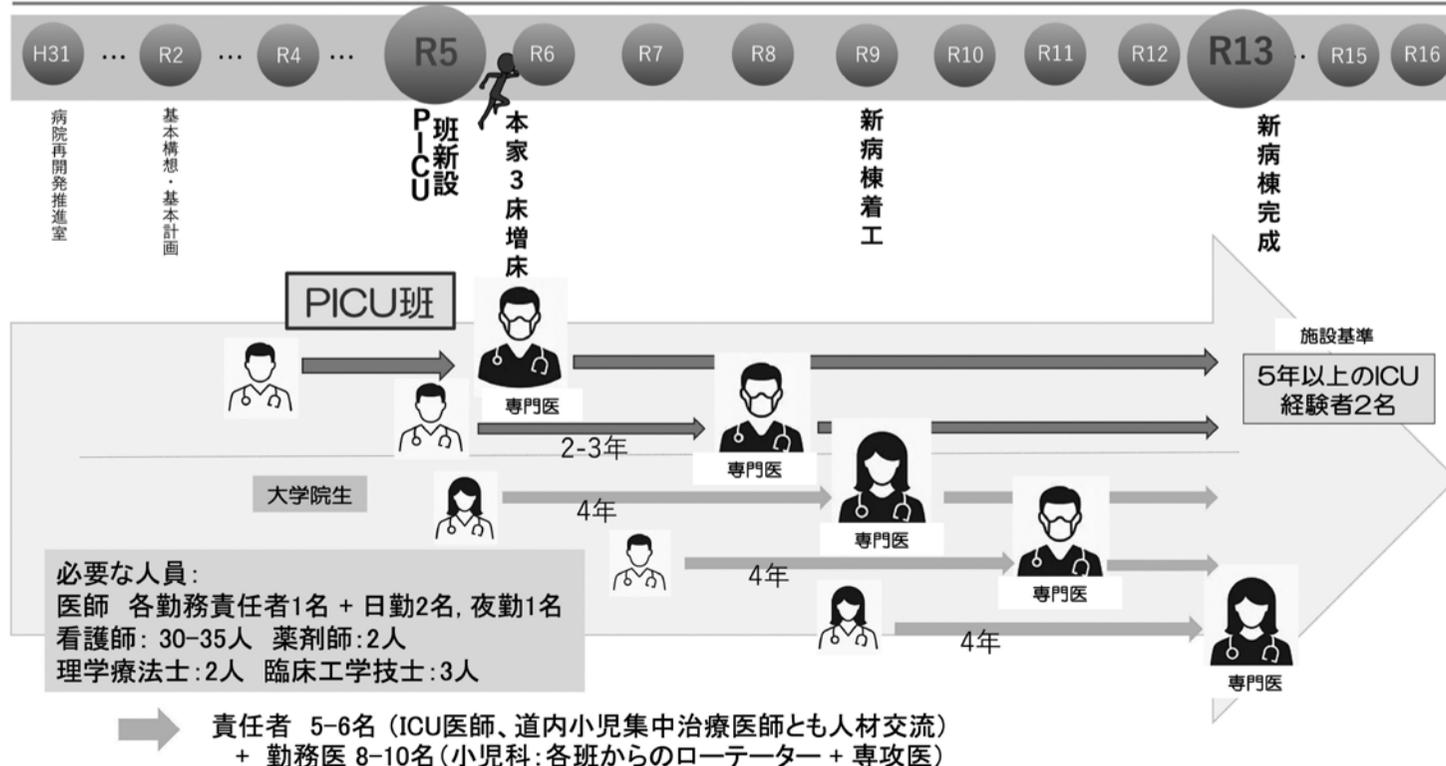
当科では、23年度から新規診療班としてPICU班を創立し、本家ICUでの専従勤務を開始、唯一網羅していなかった多臓器不全小児患者の集中治療にも対応できるよう、図のような計画で専門人材の育成を始めました。ICUには麻酔科・消化器外科・心臓血管外科・救急科の各専門家や集中治療に精通した看護師・薬剤師・臨床工学技士・理学療法士など各スタッフが互いにリスペクトしあいながら成長できる土壌がありますし、医療者としての視野が大きく広がります。意識状態評価、人工呼吸管理、循環作動薬の選択、ECMO管理、腎代替療法管理、輸液・栄養管理の知

識と実践の隙間がみるみる埋まっていきます。

ICUに携わる全てのスタッフの人材育成と道内PICUの現状について行政を含む社会の人々に広く知ってもらうことを目的としてクラウドファンディングに挑戦しました。看護部の協力も得て、23年7-8月にかけて854名の支援者より2306万円ものご寄付をいただきました。支援金にてスタッフの研修会、セミナー、学術集会などへの参加を支援し、専門性を磨いてもらうなど、本家ICUにも貢献してまいります。

当院にPICUが開設されれば、地方の小児科医師の負担軽減になり、他の診療班をバックアップすることで小児科医の臨床業務と研究活動のエフォートを改善できると信じています。また、これまで小児集中治療領域を支えていただいた施設へ敬意を表し、ご協力できずにいた悔しさを晴らしてまいりたいと思います。

### R13年PICU8床稼働を想定した人材育成アウトライン



# 「海外で活躍する同窓生(32)」

## — 南極やアフリカで働く —

外務省医務官 在エチオピア日本国大使館 一等書記官  
第57次日本南極地域観測隊 越冬隊医師

もりかわ ひろひさ  
森川 博久(81期)

早いもので卒後18年になった。北大での思い出は、生活を共にした恵迪寮生との思い出の方が多いが、級友とは授業や実習で多くの学び、忙しいバイトや部活の合間によく遊んだ。

卒後はプライマリケア医を志し、北海道家庭医療学センターの研修プログラムがあった日鋼記念病院(室蘭市)に入職した。志高い同期と供に尊敬する先輩家庭医の背中を追いかけた。この初期研修が終わると、東京新宿の国立国際医療センター(現、国立国際医療研究センター)総合診療科での後期研修で、内科分野の更なる修行と国際保健を学んだ。再び家庭医の道に戻り、亀田ファミリークリニック館山(千葉県)での研修後に家庭医療専門医となった。

ここから先は異色の経歴になっていく。卒後11年目で南極観測隊員となった。南極観測は、1950年代から70年近く続いている国家事業で、オゾンホールを発見をはじめ数々の自然科学系成果を挙げている。観測隊員には毎年医師2人が含まれておりそれに応募した。

昭和基地での越冬は、隊員と荷物を運んだ南極観測船「しらせ」が帰国の途についてから、来年迎えに来るまでの8ヶ月に及び、この間、30人の隊員は過酷な環境での共同生活となる。隊員は皆、厳しい健康審査を通過しているが、昭和基地での共同生活は、恵迪寮に似て独特で、良くも悪くも人との距離が近く、厳しい環境も相まって心身の不調をきたすことも少なくない。医療相談は本人の健康問題から日本に残した家族の健康問題まで幅広く、家庭医としてはやり甲斐のある環境だった。相談がないときは他の隊員の補助

要員としても働くが、他分野のプロの知識・技術に触れられるのは刺激的だった。勿論、恐ろしいブリザードや夜空一面を埋めるオーロラ、ペンギンやアザラシの愛らしい姿など極地の姿も忘れられない。

南極から帰国後、内科医として病院勤務した数年をはさみ、外務省医務官となった。学生時代はバックパッカーだったためか、途上国生活に抵抗がない。最初の赴任地は北アフリカのアルジェリア。この国の地方都市での日本人も巻き込まれたテロの記憶がまだ新しい。着任数ヶ月後の政権交代が迫る緊張の中、新型コロナウイルスの災禍に飲み込まれていった。

医務官の主な業務は、大使館職員とその家族の診療、そして在留邦人の医療相談対応だが、医療・保健機関との関係構築や医療事情の収集など外交官の仕事もあり多岐にわたる。全ての在外公館に医務官が配置されているわけではないため、周辺国の在外公館からの相談にも遠隔で対応する。大使館医務室には、最低限の医薬品、超音波検

査や血液検査の設備はあるものの、入院や精密検査は現地医療機関に頼らざるをえない。

最初に奮闘したのは在留邦人の退避支援だった。パンデミックによるロックダウン(航空便の全運休)が迫る中、大使館職員は感染のリスクに曝されながら、他国チャーター便の席を確保したり、国内の移動を支援した。私は医学情報の収集・共有と、帰国道中の感染予防に奔走した。帰国希望者を全員送り出した後も国は常に動いており、外交官に休みはない。任国で足止めされた生活はその後1年半に及んだが、南極での越冬生活を彷彿とさせるものだった。

この頃の大使館の仕事を紹介する。現地に残った邦人の一人が、Covid-19肺炎に罹患し重症化した。どの病院も満床の中、大使館員が何とか探し出した病院で人工呼吸管理となった。悪化を想定して航空搬送を模索すると、日本や欧州各国が感染者の入国を許さない中、南アフリカが受け入れを許可してくれた。大使館はロックダウン中

のアルジェリアや南ア、そして給油経由国の各関係省庁と交渉して搬送機の運行許可を得る。不織布マスクも不足していた頃で、私は青い手術衣とN95マスクで病室に度々足を運び、主治医と保険会社、搬送会社医師との情報共有にあたった。搬送当日は患者の引き継ぎと小型ジェットへの患者搬入を行い、アフリカ縦断の離陸を見送った。この患者は後に元気に帰国して家族との再会を果たした。私への感染も覚悟して遺書を残したのは、今となっては貴重な経験の一つだ。

日本では困難のない医学的有事でも途上国ではあらゆる場面で困難を伴う。母国語が通じる日本人医師、と在留邦人から重宝されているのを実感している。大阪に住む弟と同居を始めた母親の心配はあるけども、在外公館でできない研究にも着手し、任国の発展途上な医療にも貢献したい。こんな我が儘な人生をゆるし、付き添ってくれる妻には感謝以上の言葉を捧げたい。



Showa station



Axon Stroke & Spine Center

## シンガポール海外臨床実習での学び

えばた みお  
医学科6年 江端 美織(第100期)



私は2023年6月12日から7月7日の4週間、海外臨床実習としてシンガポール国立大学(NUS)のClinical Electives Programme for Overseas Visiting Studentsに参加しました。新型コロナウイルス蔓延以降、現地渡航の海外臨床実習は3年間見送られてきましたが、ようやく今年度から再開し、入学前から望んでいた海外での臨床実習を経験できたこと、とても幸運に感じています。

実習先はNUSが提携している14の病院の中から選ぶことができ、私はKK Women's and Children's Hospital (KKH)で、産婦人科2週間・小児救急2週間の実習を経験しました。KKHは、女性と子供のヘルスケアに特化した創立165周年の公立マンモス病院で、病床数は2科だけで830床を有します。

産婦人科では、婦人科腫瘍学専攻の女性医師のもと、外来、病棟、手術室、分娩室を順に回りました。手術では毎日のように術野に入り、外来では子宮頸部細胞診や子宮脱に対するペッサリーの挿入など手技も豊富に経験でき、非常に実践的な実習でした。小児救急では、レジデントの先生について、午前・午後・夜(~23:00)・当直(23:00~8:00)に編成されている4つのシフトに入り、乳幼児から高校生までの、風邪や喘息、眼科疾患、外傷、皮膚疾患、サラセミアや Dengue 熱など多岐に渡る疾患を経験できました。24時間絶えず来院する患者さんに聴診や神経診察などの基礎的な診察を2週間毎日繰り返すことで、診察技術を鍛えられました。

実習を通して一番感じたことは、シンガポールの医学生との実践力の差

です。KKHでは、医学生が自ら患者さんに問診・診察を行い、鑑別診断や今後の方針を検討した上で、上級医に完璧なcase presentationをし、主体的に診療に参加していました。私も実習2日目に入院患者さんの診察とcase presentationを求められましたが、カルテ情報もない中、拙い英語で診察し、間に合わせて行ったプレゼンテーションは要領の得ない内容で、英語力不足に加えて臨床知識と診察技術も圧倒的に足りないことを突き付けられました。まさに、井の中の蛙が大海に出たことで、自らの未熟さに気づき、成長の機会を得ることができました。世界に目を向けることは、自分や日本の立ち位置を客観的に把握し、広い視野の中で進むべき方向性を見定め、最終的には自らの成長と医療全体の発展に繋がる

と感じています。今後も留学や国際学会等への挑戦を視野に、海外に通用するだけの英語力と専門性を究めるべく精進していきます。



婦人科手術室にて記念撮影 (左から指導医のDr.Ho、江端、レジデントの先生)

# IFMSA北大主催イベント 「国際医療に携わる～国境なき医師団の活動ってなにさ!～」 活動レポート

かがや たかし  
医学科2年 加賀谷 崇(第104期)



「夢なんか、追いかけないで大人になれ」  
今から数年前、尊敬している上司が、ふと、こぼした、この言葉は未だに私の頭の中で反響しています。

子供の頃から、漠然と思っていた、立場の弱い人を笑顔にしたい夢。社会に出てから気付かされたのは、志だけでは人を助けられない、と言う残酷な事実でした。人を助けるには、相応の能力が必要なのです。

いつしか夢は「国境なき医師団(以後、MSF)に入って、世界中の人を笑顔にすること」になり、会社・家族の反対を押し切り、人生をやり直すことを決断しました。そんな私、加賀谷崇は、2023年4月、29歳にして、北海道大学医

学部医学科の104期生として編入学を果たしました。

医学部に入学できたのが、あまりにも嬉しく、気づくとMSFに連絡をしていました。そんな私の熱意が伝わったのか、MSFから思いがけないご提案をいただきました。

「少人数でも構わないので北大生と一緒にイベントを開催しましょう!」

それが今回ご紹介させていただく、IFMSA北大が主催したイベント「国際医療に携わる～国境なき医師団の活動ってなにさ!～(2023年9月1日開催)」です。

MSF日本支部の中嶋会長(札幌出身なのに札幌大ではなく北大に来た!)

と、私が会社を辞めるきっかけとなった著書の作者である、看護師の白川さんが、私に会いにイベントを開催してくれたのです。お二人が、包み隠さず本音で話していただいたこともあり、イベントは少人数どころか、大盛況で、私も大満足で過ごしていました。

そんなイベントの中、そこに来てくださったあるひとりの学生が、こう声をかけてくれ、私はハッとさせられました。

「私も、国境なき医師団になるのが、夢になりました。」

今になってようやく、上司の言葉の

本当の意味が分かったような気がします。大人になると「夢」を持っているのが珍しくなる。だが、それはきっと、大人になった私達は、「夢」を持たせる側に回っているからなのです。

私が、これまでそうしてもらったように、1人でも多くの学生が夢、目標を持てるよう行動し続けていくことが、大人である編入生の意義だと痛感した、そんなイベントになりました。

IFMSA北大は、このような活動を続けています。面白そうと思った方は、IFMSA北大でイベントを開催しませんか?可愛い後輩に夢を持たせてあげるために。

## 北日本医科学生オーケストラフェスティバル

同窓会新聞をご覧のみなさま、こんにちは。医学部103期の和田瑛怜奈と申します。私は普段、医学部公認団体であるアンサンブル・フラテや、北海道大学交響楽団に所属し、演奏しておりますが、この度はこの場をお借りしまして、もう1つの所属団体、北日本医科学生オーケストラにつきましてご紹介とご案内をさせていただきます。

『北日本医科学生オーケストラフェスティバル』(通称北オケ)は1992年に設立され、北海道や東北のみならず、関東や東海、近畿、四国などほぼ全国から医科学生が集まり、毎年1回3月に演奏会を開催しています。同窓生の中でも、北オケやその他医科学生オーケストラのOB,OGの方がいらっしゃると伺っております。毎年関東以北の様々な場所で行われているのですが、32回目を迎えた今回は、北海道での開催となり、私はご縁をいただきまして今年度の実行委員長を務めさせていただきます。

前回の北海道開催は4年前(第28回)

に予定されておりましたが、目前にしてキャンセルを余儀なくされました。第29回も中止となり、制限を加えながらの第30,31回開催を経て今回となります。まだまだコロナ禍を抜けきれない世の中ではありますが、4年間途絶えていた合宿を復活させ、本来の形に戻した開催を予定しております。

演奏会前の約1週間、集中的な合宿を通してプロの演奏家を招いて指導を仰ぎながら演奏を完成させてまいります。今回は計130名ほどの学生が集まり、札幌交響楽団の先生をはじめ、多くのトレーナーの先生方にご指導いただけることとなりました。コロナ禍の困難な時期をも経て、ここまで繋いで来てくださった先輩方の思いを受け継ぎながら、オーケストラ活動を通して短期間集中して音楽に向き合えること、そして生涯の仕事仲間になるであろう同世代の医学部生と交流できることは、かけがえのない機会です。

コンサートの会場は、著名な音楽家も絶賛する素晴らしい響きを持つ札幌

コンサートホールKitaraです。気を緩めきれない日々ではありますが、このように音楽を楽しむことのできる環境があることは本当に幸せなことだと思っております。札幌での最高の『オーケストラフェスティバル』の復活開催に向けて、全力で準備を進めているところです。ご多用中とは存じますが、是非、演奏を聴きにいらしていただければ幸いです。

また、クラウドファンディングや寄付金の募集や、演奏会当日に配布いたしますパンフレットへの広告掲載も承っております。誠に恐縮ではございますが、もし私どもの活動にご支援をいただければ大変ありがたく存じます。ご協力いただける方は、別記チラシをご参照いただき、ぜひお力添えいただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後に、このような貴重な場に掲載を許可してくださいました同

窓会編集委員長の矢部先生、そして開催にあたりましてご支援、ご協力を賜ります関係者のみなさまに感謝を申し上げます。私からのご案内とさせていただきます。

**Kitaoke 32 第32回**  
**北日本医科学生**  
**オーケストラフェスティバル**

2024.3.17(日)  
札幌コンサートホールKitara 大ホール  
開場16:30|開演17:00  
チケット一般:1000円 学生:500円

指揮:鈴木 謙雄  
曲目:ワーグナー交響曲「リエンツィ」序曲  
プロkofエフ/パレス音楽「ロメオとジュリエット」第2組曲  
ショスタコーヴィチ交響曲第7番「レニングラード」

**クラウドファンディング**  
**広告掲載募集中!**

コロナ禍を乗り越え、北オケは3年ぶりに本来の合宿形式での開催を予定しております。しかし、学生団体という性質上、運営資金は十分とはいえません。将来の医療を担っていく学生が音楽で繋がる素敵な伝統を未来に繋げていくため、皆様のお力が必要です。  
公式ホームページ: <https://kitaoke.com>  
お問い合わせ: [kitaoke32.hkd@gmail.com](mailto:kitaoke32.hkd@gmail.com)

## フラテ110号発行のお知らせ

医学部フラテ編集部

同窓会新聞をご覧の皆様、いつも校友会誌フラテをご購読いただき、誠にありがとうございます。皆様の温かいご支援を賜り、昨春に「フラテ109号」を無事発刊することができました。

さて、我々フラテ編集部では、今年3月発行予定の「フラテ110号」の発行準備を進めております。本号では、ここ数年中止を余儀なくされていた、全国の卒業生の先生方を訪ねる「各地に行く」という記事が再始動し、東京フラテ会を取材させていただきました。また、聖路加国際病院、東京慈恵会医科大学附属病院、社会医療法人財団大和会の東大和病院と武

蔵村山病院を見学させていただきました。その他にも、特別企画として、研究を行っている先生と学生の対談記事も掲載予定です。

我々フラテ編集部は、「北大同窓生の茶の間」であるべく、ほっと一息ついていたいただける温かい記事を多数ご用意しております。近年は比較的若い先生方からのご購読が減少傾向にあります。もし、この文章で少しでも興味を持って頂けた先生がいらっしゃいましたら、是非ご購読下されば幸甚です。

ご購入をご希望の方は、同封の払込用紙またはQRコードからお支払いをお願い致します。電話でのお申し込みは受け付けておりません。ご了承ください

い。すでに109号巻末の用紙で申し込まれた方は今回申し込む必要はございません。



### 110号の主な内容(予定)

- ・各地に行くin東京
- ・研究を行う先生と学生の対談
- ・教室だより、各教室の勉強会、説明会一覧
- ・新任教授インタビュー
- ・みどりのベンチ(医療界で活躍する女性へのインタビュー)
- ・茶苑

### フラテ茶苑 寄稿者募集

フラテ茶苑では、卒業後の先生方からの寄稿文を掲載しております。期を問わず、ご自身の専門分野、趣味等

をご投稿いただけます。多くの学生が読んでおり、北大出身の先生方の多彩な分野での活躍は学生にとって視野を広げる格好の機会となっております。

様々なバックグラウンドを持つ先生方がフラテ茶苑を通して交流できる、そんなコーナーにしていけたらと思います。沢山のご寄稿をお待ちしております。

○内容・形式・字数:自由(専門分野のお話、趣味のお話、最近取り組んでいる事など)

フラテ編集部  
E-mail: [frate.med@gmail.com](mailto:frate.med@gmail.com)  
〒060-8638  
札幌市北区北15条西7丁目  
北海道大学医学部内

# フラテ祭2023 開催報告

フラテ祭実行委員会事務局

第16回目となる「フラテ祭2023」は、北海道大学ホームカミングデーと同日の9月30日(土)に医学部学友会館「フラテ」ホールにて開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、4年ぶりの集客開催となりました。同窓生をはじめとする関係者の皆様方、40名にご参加いただきました。

医学部公認団体アンサンブル・フラテによる演奏から始まり、本間明宏フラテ祭実行委員長並びに浅香正博医学部同窓会長からの挨拶に続き、畠山鎮次医学部長、南須原康行北海道大学病院副病院長による講演が行われた後、現役医学部生(全学ラグビー部、医学

部軽音楽部)による活動発表が行われ、医学部の現状を発信しました。

続いて、国内外でご活躍されている同窓生による特別講演が行われました。

Foundation Cardiology / Southern New Hampshire Medical Centerの遠藤由香先生(医学部第65期)から「日米の医療を経験して」と題した講演が行われ、大阪大学微生物病研究所免疫化学分野の荒瀬尚教授(医学部第66期)から「新たな発見を求めて」と題した講演が行わ

れました。最後に、音羽博次奨学基金授与式が行われ、盛会のうちに終了しました。

今年度も多くの方のご支援とご協力

をいただき、無事にフラテ祭を終えることができましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。



遠藤由香氏による特別講演の様子



荒瀬尚氏による特別講演の様子

## 理事会・評議員会報告

日時：令和5年11月20日(月)  
午後6時30分から午後6時55分  
場所：医学研究院 百年記念館  
大会議室

出席者  
**理事会**  
出席：10名(会長、副会長2名、理事7名)  
**評議員会**  
出席：49名(出席者9名、委任状提出者40名)  
同席：監事1名

会議に先立ち、浅香会長から理事会・評議員会を新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止のため、合同で開催することが提案され、これが了承された。

### 【協議事項】

1. 現役員の体制について  
浅香会長から大場淳一理事が7月6日に急逝されたことが報告された。  
次いで会長から会則に「役員に欠

員が生じたときは直近の評議員会において補充選出する」と規定されているが、現役員の任期が明年3月末日までなので後任者を補充しないとの説明があり、これが了承された。

2. 役員候補者選考委員会の設置について  
議長から資料1(会則)第9条に「役員の任期は2年」と定められており、現役員の任期が来年3月末日で満了すること、資料2(役員候補者選考委員会に関する要項)第1条に「評議員会は、役員の任期が満了する前年の評議員会において、次期役員候補者選考委員会を設置する。」と定められているので、本日の評議員会で選考委員会を設置する旨説明があり、了承された。

次いで、議長から第2条に基づき、篠原信雄(60期)、木佐健悟(80期)及び松島理明(80期)の各氏を選考委員会委員に指名した旨説明があり、了承された。

### 【報告事項】

1. 評議員、予備評議員の一部交代について  
令和4、5年度の2年間を任期とする評議員、予備評議員の一部交代について報告されました。  
次いで、浅香会長から医学科学生は平成26年4月から医学部入学時に同窓会員となっているが評議員・予備評議員に就任していないこと、学生にも積極的に同窓会活動に参加してもらうことについて、医学部長とご相談した結果、ご賛同いただき、1年生から6年生の学友会委員が評議員・予備評議員に就任することになった旨説明があった。
2. 令和5年度庶務、事業報告について  
久任副会長から資料4に基づき、今年度の定時総会を来年2月5日(月)に医学部百年記念館で開催する旨報告があった。  
総会終了後、令和5年度フラテ研究奨励賞授賞式を行う旨報告があった。

- また、卒業歓迎会は午後7時から同会場で行われる旨報告があった。  
引き続き、矢部編集担当理事から医学科学生の1年生から6年生が学生編集委員として同窓会新聞の企画に参画している旨報告があった。  
さらに、事業報告(編集報告)として資料4に基づき、同窓会新聞の発行状況、同窓会誌の表紙のデザインなど進捗状況について報告があった。
  3. 令和5年度会計収支中間報告について  
大西会計理事から資料5に基づき、本年9月末日現在の令和5年度会計収支状況について報告があった。
  4. 令和5年度以降の会費免除について  
議長から、会則第6条第2項に基づき、昭和43年卒業の第44期生の会員は令和6年度以降の会費が免除となる旨報告があった。  
※協議事項は政氏評議員会議長が、報告事項は橋本副議長が議事進行を務めた。
- 以上

## 告知板

### ＜令和5年度 北大医学部 東京フラテ会総会のご案内＞

令和5年度の東京フラテ会総会は、ひさしぶりに学士会館で全面開催されます。講演会・総会に引き続き懇親会を行う予定です。同期知友をお誘い合わせの上、ご参加くださいますようご案内申し上げます。

日時：令和6年3月9日(土) 午後5時受付開始  
会場：学士会館 2階(地下鉄 神保町駅 A-9出口1分)  
東京都千代田区神田錦町3-28 Tel 03-3292-5936  
会費：12,000円  
講演会：午後5時30分から6時30分  
＜講師：筑波大学 医学医療系免疫制御医学・教授、革新的創薬開発研究センター長 渋谷 彰先生(57期)＞

講演タイトル：免疫難病の病態解明から医薬の開発へ  
議事：午後6時30分から6時45分 203号室  
参加方法：右図のQRコードから、東京フラテ会参加専用フォームにて参加申し込みをお願いします。  
東京フラテ会 会長 畠山 昌則(57期)



【お問い合わせ】事務局 東大病院 大村 孝志(59期)  
Tel 042-562-1411(代) e-mail omura-tak@yamatokai.or.jp

### ＜令和6年 北大医学部 関西フラテ会総会のお知らせ＞

関西フラテ会会員の皆様、久方ぶりの総会開催となります。講演は87期の阿部圭史先生です。ふるってご参加いただき、旧交を温めて下さい。

関西フラテ会会長 山中 幹基(67期)  
記

日時：令和6年3月2日(土) 午後5時～  
場所：北大館  
〒530-0011 大阪市北区梅田1丁目2番2-200号 大阪駅前第2ビル2階  
講演：元 WHO健康危機管理官、現 日本維新の会 衆議院兵庫県第2選挙区支部長 阿部 圭史 先生(87期)  
演題名：「国家の感染症危機管理と臨床医療の位置付け」

会費：一般 4,000円、研修医 1,000円

2次会(懇親会)を総会終了後に行います。ふるってご参加下さい。  
場所：神仙閣 大阪店 大阪駅前第1ビル12階 会費：8,000円  
問い合わせ：医療法人桜栄会山田医院  
山田 栄治(74期) TEL 0774-63-0315  
参加登録：2月17日(土)までに、下記QRコードから登録をお願い致します。



<学内・院内人事異動>

<辞職>

2023年11月30日 柳 輝希(79期) 皮膚科 講師(琉球大学 准教授)
12月31日 松野 吉宏(59期) 病理診断科 教授
(北海道がんセンターパソロジーセンター センター長)
2024年 1月31日 表 和徳(会員2) 循環器内科 助教(北海道中央労災病院 循環器内科)
3月31日 高畑 雅彦(73期) 整形外科 准教授(獨協医科大学 准教授)

<採用>

2023年10月 1日 深井 原(70期) 消化器外科学教室 I 特任研究講師
和田 雅孝(81期) 消化器外科学教室 II 特任研究助教
11月 1日 村松 憲(87期) 皮膚科 助教
2024年 1月 1日 土岐 崇幸(87期) 麻酔・周術期医学教室 助教
2月 1日 伊東 孝政(86期) 皮膚科 助教
守谷 結美(会員2) 乳腺外科 助教

<昇任>

2023年12月 1日 三田村 卓(77期) 婦人科 講師(同科助教)
新垣 雅人(79期) 呼吸器外科 講師(同科助教)
森田 真也(80期) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師(同科助教)
2024年 1月 1日 渡邊 美佳(83期) 皮膚科 講師(同科助教)
4月 1日 河野 通仁(82期) リウマチ・腎臓内科 講師(同科助教)
清水 智弘(83期) 整形外科 講師(同科助教)
相川 勝洋(84期) 麻酔科 講師(同科助教)

<その他>

2024年 4月 1日 秋田 弘俊(57期) がん遺伝子診療部 招へい教員
(がん免疫療法研究部門 特任教授)
5月 1日 荒 隆英(85期) 血液内科 助教(同科特任助教)

<「クラーク博士馬上の像」建立のご寄付のお願い>

札幌農学校の初代教頭クラーク博士が、1877(明治10)年4月16日アメリカへ帰国の際に見送りの学生や職員たちと別れた場所が北広島市島松沢と言われ「Boys, be ambitious!」の名言を残し、馬に乗って旅立ちました。認定NPO法人クラーク会では、北大創立150年に当る2026年にこの地に馬上のクラーク像を建立することを目指して募金活動を実施しております。クラーク精神が後世に引継がれますよう卒業生の皆

様方のご支援をお願い申し上げます。
※ HPでの申込方法 ⇒ https://npo-clark.com/アンビシャス基金
※ リーフレットで申込む場合は下記に連絡ください。事務局 菊川昭夫
Tel/Fax (011)377-1630

事務局からお知らせ

同窓会費について

○会費納入のお願い

会員の皆様には、会費納入にご協力いただきありがとうございます。
同窓会の事業は会員の皆様の会費によって運営されています。会費納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。

○会費納入は次のいずれかの方法によります

- ①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込
※詳しくは同窓会新聞に同封される払込票をご覧ください。
○会費未納者と刊行物の送付
・過年度分未納会費が2年を超える会員

には、会員名簿(同窓会誌)をお送りしません。
・納入が9月30日を過ぎると、入金確認及び印刷部数確定の都合によりお送りすることができません。
○会費免除者と刊行物の送付
・会則により、卒業後55年を経過した

会員の会費は、翌年度から免除となります。
・43期生は令和5年度から、44期生は令和6年度の会費から免除となりますが、免除前に過年度分2年を超える未納会費がある場合は、会員名簿(同窓会誌)をお送りしません。

ドクター総合補償制度のご案内

同窓会では「ドクター総合補償制度」を創設し、現在、500名近い会員が加入して、ご好評をいただいています。
本制度には「医師賠償責任保険(勤務医向け)」、「医療・がん保険」、「所得補償保険」があり、団体割引が適用さ

れるので割安な保険料で加入することができます。
年度途中でも加入出来ますので、同窓会事務局あるいは取扱代理店にお問い合わせください。

(同窓会事務局)
電話 : 011-706-5007
E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp
(取扱代理店)
株式会社第一成和事務所
〒103-8214 東京都中央区日本橋

馬喰町1丁目12番3号 Daiwa日本橋
馬喰町ビル3階
フリーダイヤル : 0120-100-492
E-mail : koumu@d-seiwa.co.jp



新刊書紹介



「ハートチームのための 心臓血管外科手術 周術期管理のすべて(改訂第2版)」

くに はら たかし
國原 孝 編集(67期)
メジカルビュー社 ¥9,900

超高齢化社会の現代において最も周術期管理に難渋する手術といえば心臓血管外科手術だろう。増え続けるハイリスク症例を安全に管理するために、ハートチームのメンバーには最新の知識や技術に精通することが求められる。ただ、各メンバーは自身の専門分野の膨大な知識の習得だけで手一杯になっていないだろうか? そのような人にお薦めだったのが、6年前に出版され心臓血管外科の周術期管理について網羅した内容でバイブルとなった前作である。本書は、前作同様、前半に総論とし

て周術期の基本となる管理について記述されている。後半は疾患ごとの各論である。多数の写真が掲載されており、手術内容の理解が深まるだけでなく、各疾患の具体的な管理方法が挙げられている。これが実臨床の諸問題に即座に対応できる内容となっている。それもそのはず、本書は臨床の最前線にいる医療者により執筆されている。また、今作は最新のガイドラインに準拠して改訂され、この間に新しく出た概念や治療法、デバイスについても詳細に加筆されている。

これだけでも既にマストバイだが、本書の最大の特徴はやはりインフォームドコンセントや医療安全についての記載である。改訂第2版ではこれらが独立した項目として記載されている。医療安全が重要視されるようになったこの時代ではあるが、このような書籍はなかなか見当たらない。
やはり今作もハートチームの全メンバーにお薦めしたい良書である。
(86期 糸洲佑介)



「ソーシャルジャスティス 小児精神科医、社会を診る」

うちだ まい
内田 舞(83期)
文藝春秋 ¥1,122

この本には著者のこれまでの人生が詰まっている。
なりたい自分になるために、これまでも、今もなお、どれほど努力したのだろう。著者は何気なくやり過ぎてしまいそうな出来事から多くの気づきを得て、違和感の是正に挑む勇者のようだ。
著者の職業柄、また広い交友関係ゆえのこれまでの多くの出会いの中には、負の感情を起こさせる人も少なからずいたことと思う。それにもかかわらず、著者は「人が大好き」という。私はこ

の言葉に驚くとともに、自分を顧みてしばし読む手が止まってしまった。
なお、彼女のいわばぶっ飛んでいる様が理解し得ないと感じる方もいらっしゃると思う。それも理解できる。しかし私は著者がいわゆる普通の感覚も持っていることを知っているし、昨今メディアで見かける彼女の発言や文章からも感じられるのではないかと思います。彼女は普通を理解した上で自分の意思でそれを超えていっている。更に、皆を連れていこうと社会に関わっていく。科学的に論じるのも彼女の一面、

全力で日常も非日常をも楽しみ、感動したり怒ったり、子供の成長を案じるのも彼女の一面。彼女はバイタリティに溢れ、とても人間的で魅力がある。
理解し合えないように思えても一かゼロかではない、意見が違うからといって攻撃するのは違う、物事の本質は何か、どうあるべきか、冷静になって感情を「再評価」してみる。大きな変化が次々起こる昨今を過ごすためのヒントが、彼女の経験とともに言語化された、濃い本です。是非、ご一読下さい。
(83期 干野季美子)

次号に新刊書紹介をご希望の方は、右記の要領でお送りくださいますよう、お願いいたします。

【原稿締切日】 2024年3月15日(金)までにお送りください。
【字 数】 本文600字以内でお願いいたします。※本文の前に「タイトル」、著者名(または編集者・監修者名等)フリガナ(卒業期)、出版社名、金額(税込)を、最後に執筆者名および卒業期を明記してください。

【表 紙】 表紙の画像をメールに添付してお送りください。
【書評執筆者】 著者(編集者・訳者・監修者)以外の同窓会員(会員2も含む)に限ります。
【原稿送付先】 furate@med.hokudai.ac.jp
【掲 載 号】 新聞178号(5月号、6月中旬頃発送開始予定)

### 総会、新入会員歓迎会のご案内

#### 同窓会総会

令和5年度定時総会を下記により開催しますので、ご出席くださるようご案内いたします。

日時：令和6年2月5日（月）  
午後6時より

会場：北海道大学医学部百年記念館  
(1階) 大会議室

所在地：札幌市北区北15条西7丁目  
(北大構内)

議事

1. 協議事項（予定）  
(1)令和4年度会計収支決算  
(2)令和4年度会計監査  
(3)その他

#### 2. 報告事項（予定）

(1)庶務・事業報告  
(2)令和5年度会計収支中間報告  
(3)その他

総会終了後、令和5年度フラテ研究  
奨励賞授賞式を予定しています。

#### 新入会員歓迎会

総会終了後の午後7時より、大会議室において、第100期生の卒業歓迎会を開催します（参加費は無料）。

## 北海道医学会からお知らせ

#### ○北海道医学会について

北海道医学会は北海道における医学と医療の進展を図るため、大正12年に発足した学術団体です。現在は、北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学の医師、医学研究者のほか本会の目的に賛同される方々を一般会員として、また道内の主要医療機関には特別会員として、本会に功績のあった方々には名誉会員としてご参加いただいています。

※ 北海道医学雑誌は大正12年8月の創刊以来、戦中、戦後の一時期を除いて今日に至るまで継続して刊行され、北海道における医学総合雑誌として広く認知されています。

本誌は原著論文以外にも、「研究会」「教室だより」などのセクションにおいて会員の様々な活動を紹介しています。

#### ○入会のご案内

本会に入会されていない同窓会員におかれましては、是非ご入会いただきますようご案内申し上げます。医療機関としてのご入会も歓迎します。

なお、会員には機関誌「北海道医学雑誌」を発行の都度お届けいたします。

入会方法は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

#### ○主な活動内容

- ・機関誌「北海道医学雑誌」の発行（5月、11月：令和5年は第98巻）
- ・学術集会「市民公開シンポジウム」の開催（10月下旬：昭和42年から実施）
- ・若手研究者への「研究奨励賞」の授与（年3名以内に賞状及び副賞：昭和58年から実施）

#### ○会員の状況（令和5年12月31日現在）

- ・一般会員 530名（年会費 4,000円）
- ・学生会員 2名（年会費 1,000円）
- ・特別会員73団体（年会費 25,000円）
- ・名誉会員 170名

・投稿規定、掲載料等は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

#### ○お問い合わせ先

北海道医学会事務局  
電話：011-706-5007  
E-mail: digakkai@med.hokudai.ac.jp

### 会員名簿の 処分に お困りの方へ

会員名簿には個人情報に掲載されていますので、ご不要になった名簿は適切な処分をお願いいたします。ご自身で処分が困難な方は、郵便（レターパック等）により同窓会事務局へ送ってください。なお、**恐縮ですが送料は各自でご負担願います。**

#### ○送付先

〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目  
北海道大学医学部百年記念館 北海道大学医学部同窓会事務局  
【箱詰めにした場合】日時指定で必ず「百年記念館宛」にして下さい。  
月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）午前10時から午後4時まで。

## 医学部百年記念館の利用について

北海道大学医学部百年記念館は、原則北海道大学医学部及び関係部局が主催する授業及び行事、また、同窓生の交流の場としてご利用いただけます。なお、事前予約が必要のため、ご利用希望の際は庶務担当までご連絡願います。

#### お問い合わせ先

北海道大学医学系事務部総務課庶務担当 ※同窓会事務局では予約及び予約状況の確認は出来ません。【受付時間】月曜日～金曜日（年末年始・祝日を除く）午前10時15分から午後5時まで  
TEL: 011-706-5004 FAX:011-717-5286 E-mail: shomu@med.hokudai.ac.jp

### ご逝去者

新聞176号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

御逝去年月日	氏名	期	御逝去年月日	氏名	期
2022年			10月 6日	八田 政美	34
11月17日	日野 泰夫	47	10月12日	五十嵐 丈	34
2023年			10月15日	玉置 俊男	35
3月10日	南 條 継雄	39	10月16日	武田 慎一	29
<small>(前号で6月8日と記載いたしましたが、誤情報とのことですので、お詫びし訂正いたします)</small>			10月20日	横田 林一夫	39
3月20日	寺田 秀夫	30	11月 1日	小早 真樹	38
4月22日	和田 淳	22	11月14日	早坂 直一	38
5月 1日	岩永 力三	46	11月14日	中平 成也	41
5月18日	中林 武仁	46	11月16日	浅野 讚一郎	37
6月 5日	清水 幸彦	39	11月26日	浅野 讚一郎	37
8月 5日	清川 智	28	11月28日	吉岡 晃	71
8月17日	富澤 磨須美	42	12月 1日	水戸 迪郎	31
8月25日	平井 隆之	33	12月12日	阿岸 祐幸	32
8月27日	小宮 原之	44	12月12日	上原 秀樹	45
9月 5日	今井 雅子	38	12月13日	荒川 浩彦	38
9月 8日	川上 恒生	46	12月14日	酒井 勝	45
9月11日	福田 勝洋	25	12月19日	葛巻 暹	43
9月13日	福田 正之	54	12月21日	福士 雄幸	32
9月19日	武島 洋之	39	12月25日	菅原 見	31
9月19日	武島 正之	42	12月25日	小杉 宏民	35
9月21日	酒井 忠一	41	12月31日	小杉 嘉	31
9月25日	高橋 尚	33	2024年		
9月29日	西村 克	専5	1月12日	鈴木 雅	76
9月30日	新沼 隆	34	1月14日	山田 昌	44
10月 3日	岡田 彦	28	2月 4日	高坂 琢磨	44
		30			79

### 一面の写真説明

#### 「清き国への憧憬」

高橋 敦(42期)

写真集や絵葉書に延齢草(オオバナノエンレイソウ)を観る機会があるが、銀塩時代の写真。花卉、萼片、葉をそれ

ぞれ3枚もつ校章の意匠をデジタルで残すことを意図して2023年5月中旬、帯広にある群生地を訪ねた。延齢草は「奥ゆかしい美しさ」「叡智」を表すとか。繊細な花の形態は年ごとに再現されるが、先人が憧れた清き国と現代は通底するだろうか。

#### 編集後記

2024年1月1日、未曾有の大災害が能登半島を襲いました。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

北大医学部に続き、北大病院も創立100周年を迎えました。長い歴史に育ま

れて、今があることを実感いたします。記念行事の記事をどうぞ一読ください。微力ではございますが、同窓会員の皆様と一緒に、2世紀目に突入した北大医学部・北大病院を盛り立てていければと思っております。

(78期 氏家英之)

◎会員登録情報の変更は、ホームページ内の「会員データ登録・変更フォーム」より、お手続きいただくことが可能です。  
<https://hokudai-med-dousou.com/contact/>

◎同窓会新聞は142号からHP上でご覧いただけます。アドレスは次の通りです。  
<https://hokudai-med-dousou.com/news/index.htm>  
◎新聞最新号webサイト公開時には、各期評議員・予備評議員の皆様にもメールで周知をさせていただきます。

印刷所 **大日本印刷(株)** 〒065-0007 札幌市東区北7条東11丁目1番1号  
代表 (011) 750-2205